



元気っ子

No.287 ながさわ保育園

園長 中瀬 弦 偉

7月に入りました。子どもたちにとっては待ちに待ったプール遊びが始まります。この時期は、昨年もそうでしたが、雨が多く、なかなか思うようにプール開きができないのですが、一日でも早く気持ちの良い太陽の下で子どもたちが夢中になって水遊びを楽しむ声が園庭に響くことを楽しみにしています。

送迎の際にご覧になられている保護者もたくさんおられると思いますが、園庭と西の広場の部分改修として、豊和建設の羽田さん（当園 OB でもあり、卒園児の保護者さんでもあります）に芝生を貼って頂きました。芝生がある程度根付くまでは芝生の部分には入れないのですが、7月上旬には解放できる見通しになっています。また、一二三建築の伊藤さん（当園 OB）には園舎内の高所部分の清掃をして頂きました。いずれの方も専門分野でないにもかかわらず、快く引き受けて下さいました。コロナ禍において、なかなか地域の方々との交流が出来ていない中でも、このように地元の業者さんや地域の方々との繋がりの元に、ながさわ保育園は支えられているということ、これからも大切にしていかなければいけないと強く感じました。

0歳児クラスのひよこ組にクッションカーペット、2歳児クラスのうさぎ組に円形じゅうたんを入れました。2歳児に円形じゅうたんを入れた理由はその頃の発達に理由があります。おおよそ2歳頃の子どもは、少しずつ社会性というものが育ち始めます。つまり仲間と一緒に行動することが楽しくなりだします。当然、子ども集団を形成していく中なので、待つことや我慢をすることなど色々なルールを子どもたちは知っていきます。このルールは決して行動を制約するためのものではなく、よりよく生きるために必要なものであることを知っていきます。こういったことを学んでいくための環境構成の一つが円形じゅうたんになります。子どもたちがお集まりだったり、何かで集合したりする際にはできるだけ「円形」で集まるようにします。円形で集まることで、全員の顔をお互いに見ることができ、集団意識が強くなっていきます。以前は、小さな円形テーブルを囲むようにして集まったりしていたのですが、環境をより効果的に改善したかたちになります。

このように芝生にしても、清掃にしても、それにかかわって下さった業者の方、またカーペットにしても子どもたちにとっては大切な環境になります。以前にも元気っ子で書きましたが、子どもたちは自らが主体的に環境に関わり、その環境を通して養護と教育を一体的に行うことが保育の大前提になっています。「環境」は物・人・空間と大きく三つの分野に分ける事ができるのですが、いずれの環境も大人が狙いをもってしっかりと構成していくことが我々保育者の責務だと思います。子ども集団の中心に大人がいて、アレコレ指示を出して何かを教えたり指示したりすることが保育なのではなく、子どもたちが自ら、主体となって育っていくための環境を構成していく、このことをしっかりと当事者意識をもって取り組むことこそが保育なのです。